

# YAMAHA Marine News

2006 No.158



**YAMAHA Now: 2007ニューモデル発表**  
**MARKET TREND: 船外機の拡販とコマンドリンク**

# 充実のフィッシングボート



## F.A.S.T.26 S/D



## F.A.S.T.26 EX



## F.A.S.T.21

## 2007ニューモデルいよいよ登場

去る9月7、8日の両日、ヤマハマリーナ浜名湖で行われた2007新艇発表会で、今秋に登場するニューモデルの試乗会が行われ、内海向けフィッシングボートのF.A.S.T.26がバリエーションモデル3艇（内1艇は21フィート）を加えてシリーズ化となり、ラインナップに加われました。今回はこれらのボートと2007マリンジェットのパネルをご紹介します。

## F.A.S.T.26 S/D

### 新開発ディーゼルを搭載したニューモデル

内海向けのフィッシングボートとして好評のF.A.S.T.をベースにディーゼルエンジンを搭載したのがF.A.S.T.26S/Dです。ディーゼルエンジンを好むヘビーユーザーをターゲットに開発されたこのモデルは全天候型のクローズドキャビンを採用したほか、スタンドライブならではの浜座りも可能で、干満の差が大きい河川係留などにも対応します。

#### ■主な特徴

- フラットキールとW.T.B.を組み合わせた船型は安定性と風流れ抑止性能に優れ、さまざまなボートフィッシングに対応。大型のフレアはスプレーの侵入を抑え、船上の快適性を確保します。
- 一年中釣りが楽しめるようにリアドア付のキャビンを搭載。コックピットは10インチモニターの取付が可能です。
- 小型、軽量の<D270KUH>ディーゼルエンジンを搭載。95kW（129ps）を発揮し、中低速からのトルクのある走り、静粛性、低振動、クリーン排気を実現。微速装置の選択が可能です。

#### ■主要諸元（）は微速装置無し

- 全長:8.40m ●全幅:2.45m ●全深さ:1.23m ●艇体質量:1,411kg ●完成質量:2,011(1,961)kg ●定員:8名 ●搭載エンジン:D270KUH ●最大保証馬力:95kW(129ps) ●燃料タンク容量:160ℓ ●航行区域:平水/限定沿海



# F.A.S.T.26 EX

## 船外機モデルにリアドア装備をラインナップ

従来のF.A.S.T.26の基本性能はそのままに、アフステーションを取り付けるためのボックス形状を織り込んだ新デザインのブリッジを採用。リアドア付きのキャビン仕様にドライバーズシートを標準装備。オプションではオフセットバンカー等を用意し、釣り機能を高めています。

### ■主要諸元( )はF150仕様

●全長:8.40m ●全幅:2.45m ●全深さ:1.23m ●艇体質量:1,377kg ●完成質量:1,568(1,595)kg ●定員:8名 ●搭載エンジン:F115AETX(F150AETX) ●最大保証馬力:110.3kW(150ps) ●燃料タンク容量:160ℓ ●航行区域:平水/限定沿海



# F.A.S.T.21

## FOAMAPを採用した、底釣り、流し釣リスペシャルボート

ボートフィッシングの中でも根強い人気を誇る「底釣り」「流し釣り」に対応し、スタイリッシュでありながら釣り機能を充実させました。大型のハードトップが印象的なニューモデルです。

### ■主な特徴

- ウォークアラウンドのデッキレイアウトを採用し、パウデッキには広い釣りスペースを確保。操船席に居ながらにして釣りができるハードトップを採用し、流し釣りや底釣りに対応しています。
- 収納性を高めた大型のブリッジは、カディ入り口を前方に設けて収納時の利便性を高めました。
- 最高レベルの不沈構造であるFOAMAPを採用しています。
- トルーリング機能を採用したF90搭載モデルでは550回転から1000回転の間、50回転刻みでエンジンの回転数を調整することができます。
- オフセットバンカーを用いることで、主機を下げたままでも風流れ抑止性能を発揮し、流し釣りに寄与します。

### ■主要諸元( )はF115仕様

●全長:6.38m ●全幅:2.35m ●全深さ:1.16m ●艇体質量:940kg ●完成質量:1,114(1,131)kg ●定員:6名 ●搭載エンジン:F90 BETX(F115AETX) ●最大保証馬力:84.6kW(115ps) ●燃料タンク容量:110ℓ ●航行区域:平水/限定沿海



# F20&F15

## スモールレンジをカバーする4ストローク船外機

### ■主な特徴

- 9.9馬力4ストローク船外機とほぼ同等のコンパクトサイズを実現。ボートへの着脱が容易で多種多様な用途に応えます。
- 1000回転で6.5A、最大で10Aを発揮するオルタネーターを搭載しています。
- 耐久性、防水性に優れた一体型のトップカウリングを採用しています。また、アノードを増設し、排気系には特殊防食処理を施し、防食性を高めています。
- ドライブシャフトは流木などがプロペラに衝突した際の衝撃を吸収し、プロペラやギアの損傷を軽減するため、くびれた形状のウェスタイプを採用しました。
- シングルアクションステアリングフリクションやフレッシュウォーターフラッシングデバイスを採用し利便性を高めています。
- ローバイガス再燃焼装置やラピッドエグゾーストシステム、ロングスパンマウントを用いてクリーン、静粛性、低振動を実現。CARB3スターをクリアしています。

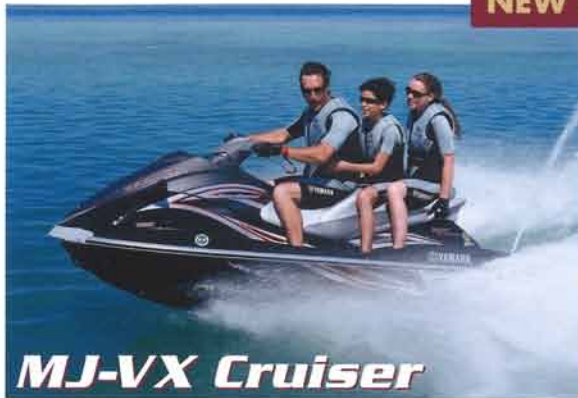
### ■主要諸元

	F20BWHL	F15CWHL	F15CMHL	F15CMHS
エンジン形式	4ストローク/SOHC /2気筒			
排気量	362cm <sup>3</sup>			
ボア×ストローク	63.0mm×58.1mm			
プロペラ軸出力	14.7kW(20ps)/5,500rpm	11.0kW(15ps)/5,500rpm		
始動方式	電動/マニュアル		マニュアル	
トランサム高	565mm		438mm	
全高	1205mm		1078mm	
全幅	420mm			
全長	1048mm			
乾燥質量	57.2kg	57.2kg	53.7kg	51.7kg



2007モデルはMJ-VXとMJ-VX Cruiserがラインナップに追加。  
MJ-GP1300R以外はすべてのモデルがカラーリング変更となった。

NEW MODEL



**MJ-VX Cruiser**

MJ-VX DXモデルにクルーザーシートを装着したMJ-VX Cruiserはブラックカラードナルと同様にボディもブラックカラーとしてスポーティさを演出しています。

- 全長:3.22m ●全幅:1.17m ●全高:1.15m ●乾燥質量:323kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:60ℓ ●オイル容量:4.3ℓ ●エンジン:4ストローク直列4気筒5バルブDOHC ●排気量:1,052cm<sup>3</sup> ●呼称最大馬力:75kW(102ps)8,000rpm ●燃料供給方式:EFI(電子制御式燃料噴射装置) ●燃料:無鉛レギュラーガソリン



**MJ-VX**

必要にして十分な走行性能と経済性、そして環境対応。シンプルでありながら基本性能の充実を図ったニューベーシックモデルです。

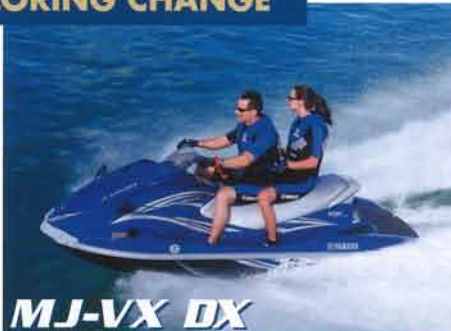
- 全長:3.22m ●全幅:1.17m ●全高:1.15m ●乾燥質量:319kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:60ℓ ●オイル容量:4.3ℓ ●エンジン:4ストローク直列4気筒5バルブDOHC ●排気量:1,052cm<sup>3</sup> ●呼称最大馬力:75kW(102ps)8,000rpm ●燃料供給方式:EFI(電子制御式燃料噴射装置) ●燃料:無鉛レギュラーガソリン

COLORING CHANGE



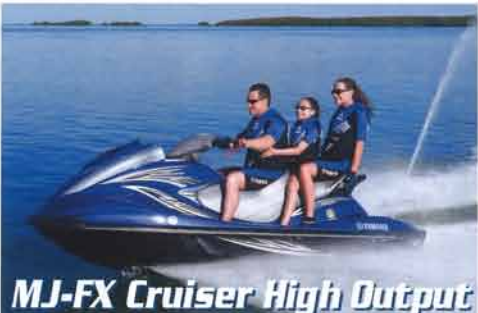
**MJ-FX High Output**

- 全長:3.37m ●全幅:1.23m ●全高:1.16m ●乾燥質量:375kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:70ℓ ●オイル容量:4.5ℓ ●エンジン:4ストローク直列4気筒5バルブDOHC ●排気量:1,052cm<sup>3</sup> ●呼称最大馬力:104.5kW(142ps)10,000rpm ●燃料供給方式:EFI(電子制御式燃料噴射装置) ●燃料:無鉛レギュラーガソリン



**MJ-VX DX**

- 全長:3.22m ●全幅:1.17m ●全高:1.15m ●乾燥質量:322kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:60ℓ ●オイル容量:4.3ℓ ●エンジン:4ストローク直列4気筒5バルブDOHC ●排気量:1,052cm<sup>3</sup> ●呼称最大馬力:75kW(102ps)8,000rpm ●燃料供給方式:EFI(電子制御式燃料噴射装置) ●燃料:無鉛レギュラーガソリン



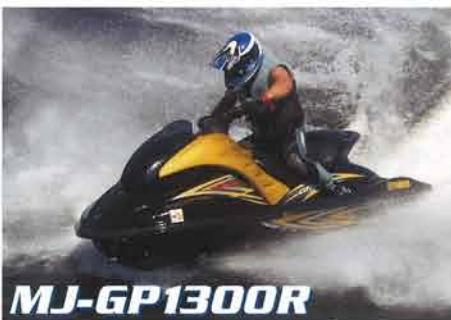
**MJ-FX Cruiser High Output**

- 全長:3.37m ●全幅:1.23m ●全高:1.24m ●乾燥質量:380kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:70ℓ ●オイル容量:4.5ℓ ●エンジン:4ストローク直列4気筒5バルブDOHC ●排気量:1,052cm<sup>3</sup> ●呼称最大馬力:104.5kW(142ps)10,000rpm ●燃料供給方式:EFI(電子制御式燃料噴射装置) ●燃料:無鉛レギュラーガソリン



**MJ-Sper Jet**

- 全長:2.24m ●全幅:0.68m ●全高:0.66m ●乾燥質量:132kg ●定員:1名 ●燃料タンク容量:18ℓ ●エンジン:2ストローク2気筒 ●排気量:701cm<sup>3</sup> ●呼称最大馬力:48.5kW(66ps)6,250rpm ●燃料供給方式:Mikuni BN38x2 ●燃料:無鉛レギュラーガソリン



**MJ-GP1300R**

- 全長:2.93m ●全幅:1.15m ●全高:1.02m ●乾燥質量:297kg ●定員:2名 ●燃料タンク容量:60ℓ ●オイル容量:5.5ℓ ●エンジン:2ストローク3気筒 ●排気量:1,297cm<sup>3</sup> ●呼称最大馬力:114.7kW(156ps)7,000rpm ●燃料供給方式:EFI(電子制御式燃料噴射装置) ●燃料:無鉛レギュラーガソリン

# 船外機で市場をリードする。 OUTBOARD & COMMAND LINK

デフレからの脱却、景気の回復と言われつつもまだまだ市場は冷え切っているという声が多く、マリンスイッチャップで聞かれる。東京や大阪などの都市圏では市場が動きつつあるものの、ボートが普及しているエリアでは法人よりも個人客が大多数を占めており、普及モデルの販売は厳しい状況だという。そうしたなか各販売店様はサービスや中古艇販売、エンジンの換装など、顧客のさまざまな要望に応じて販売を展開されている。今回は各店の市場動向と商売の中核となる船外機ビジネスに焦点を当てた。



## 新規顧客の発掘が拡販の基礎

店舗を構えて約42年。高知県のマリンスイッチャップをリードし続けてきた太平洋マリンスイッチャップは、高知市はもとより、四国のマリンスイッチャップにもその名が知られているボートディーラーだ。創業以来ヤマハと共にマリンスイッチャップを販売してきた同社だが、多くのマリンスイッチャップと同じように景気の低迷による影響を受けて、販売が伸び悩んでいるという。

「東京や大阪では景気も回復しているといいますが、ここ高知ではまだまだ明るい兆しが見えませんね」と話すのは、太平洋マリンの西沢史生さん。そんな太平洋マリンさんでは厳しい環境の中でも需要の喚起については積極的に取り組んでいる。

「YF-23を発売した時には、代替で新艇需要があったのですが、それ以降は正直、芳しいものではありません。既存のオーナーさんは新艇よりも中古を希望されるケースが多く見られましたが、新艇販売がないだけに中古もないような状態です。でもお客様が海に出ないかといえども、エンジン換装だけに留めているのが現実。ならばマリンに興味を持つお客様を増やし

ていこうと。新しい人がマリンに興味を持ち、オーナーの仲間入りをすれば、マリンスイッチャップはその分だけ広がりますし、今のオーナーさんにもいい刺激を与えられることができると思いませんか」

今シーズンはあらためて免許教室に力を入れ、需要の喚起を目指したという太平洋マリンスイッチャップだが、その手応えはどのようなものだったのだろうか。

「自分たちでやるだけに手間はかかりますが、予想以上の応募がありマリンスイッチャップの多さを改めて実感することができました。また応募された生徒さんから実販に結びついたケースも見られて、今後の可能性についても手応えが感じられる結果だったと思います」

膠着した市場の中では、新しいマリンスイッチャップの創出が需要の活性化につながる。こうしたセオリー通りの取り組みを行い市場喚起を促す一方で、既存ユーザーへの代替提案も地道に行っている。

## 取材協力



太平洋マリン (高知県高知市)



原農機 (愛知県田原市)



南予オートセンター (愛媛県宇和島市)



今シーズンオープンした高知港仁井田BP。320隻のキャパシティを誇る市内最大の係留場所

「しては重要になります」  
西沢さんが話すとおり、きちんと手入れのされたフィッシュリーズやタックルなどが見られ、トランサムには4ストローク船外機が搭載されており、換装が着実に進んでいることが伺える。大平洋マリンさんでは、今後の換装需要についても万全のサポートで商機を掴み、コマンドリンクを提案しながら、他社との差別化を図っていきたいという。



BPIには2ストユーザーも多く、換装需要が見込める



モデルに囚われることなく換装できるのがコマンドリンクの強み



高知のマリンシーンをリードする太平洋マリンの西沢さん

「コマンドリンク単品の販売は難しいですが、新たに購入されるお客様にとっては、強力なセールストークになりますよ。うちでもいくつかセッティングしてみました。最初のお客様にヤマハのホームページを見ていただくよう説明したら、翌日には取付の依頼がありました。販促ツールとうまく連動できたおかげでスムーズに導入することができたわけですが、ツールと合わせて実際に見せながら商談をまと

めていけば、今以上に期待はできると思っています」  
高知県では今シーズンから市内に300隻規模のボートパークがオープンするなどインフラも整いつつあり、代替換装と合わせて新艇の伸びにも期待ができるという。「コマンドリンクは船外機の付加価値として他社商材との差別化を図れるアイティム。新艇、換装を問わず、お客様に紹介していきたいですね」

**作業の負担を軽減させる  
コマンドリンク・システム**

アサリ、海苔、潜水など伊良湖岬周辺を漁場にする業務ユーザーを40年に渡ってサポートしているのが原農機(株)さんだ。マリン事業部の山本勉付実さんに同社が担当する市場について尋ねた。

「伊良湖の大アサリに代表されるように、このあたりはほとんどが和船と船外機を使う業務のお客様です。レジャーのお客様は1割強ぐらいですかね」

同社の主力商材は23から33尺までの和船と50から150馬力までの船外機。渥美半島の西側に点在する和船、船外機をサポートしている。

「景気のいい時期には月に25台前後は売れていたんだけど、今は年間で50台ぐらいでしょうか。製品の品質もいいし、お客様も丁寧を使うからね。昔なら2、3年で代替していたのが、100馬力クラスだと10年、50馬力だと6、7年が目安でしょうかね」

製品の故障が少なくなれば顧客との接点機会も少なくなり、代替時の商談にも影響が出やすいと言いますが、山本さんはお客様との繋がりをどのように保ち続けている

のだろうか。



原農機のマリン事業を取り仕切る山本さん



ユーザーとのコミュニケーションが代替のセールストークとなる



原農機さんの大きなマーケットは業務ユーザー。特に潜水漁は100馬力前後の船外機2基掛け仕様となる

## 代替提案に「コマンドリンク

いですよ。最近では他メーカーの船外機もよく浜で見るようになりましたが、信頼性の面でヤマハを希望するお客様が多く、普段からちよくちよく浜に出て顔を覚えておけば代替の時も声をかけてもらえる。一昔前のように展示会で売るといよりも日頃の付き合いから販売、購入するというように変化しているのは事実ですよ。それと船外機を使う業務のお客様はみなさん他人の使っている道具を気にする傾向が強いんです。うちは農機具も扱っています、農業をしている方に比べると、みなさん見せたがりや(笑)。新製品が入ると我慢するし、回りの人はこぞって観察していますからね。それをうまく使えば新商品の導入に成功できるし、そこで失敗すると、どんなにいい改良版がでてきてもだめなんですね」

苦笑いしながら話す山本さんだが、この度発表となったコマンドリンクについてはどのような印象を持っているのだろうか。「機能的にはうちのお客様に勧められる商品です。給油設備のない場所に係留されているお客様もいらっやいますし、燃費を気にされる方も少なくない。潜水をする方の船には微速装置が効果的です。これまで潮の流れに合わせてギアやステアリングを細かく操船していたのですが、このコマンドリンクがあれば極端な話、ボタンひとつで潮の流れに合わせてすることもできる。今はまだレジャーのお客様しか話がありませんが、業務の代替と合わせて勧めたいけば、かなりの確率で装着することが出来ると思います」

コマンドリンクは他社との差別化を図る上でも有効であり、原農機さんではこれから始まる代替商戦にむけて着々と準備を進めていた。

真珠養殖で有名な宇和島市。この地で長年に渡り、和船船外機の販売を中心にマリ

ンビジネスに取り組まれているのが南予オートセンターさんだ。船外機の需要は真珠漁家を中心に年間100台ほど。主力商材は50馬力から150馬力までの船外機で、それらに和船とYF-23等のレジャーボートが加わる。

「宇和島という町自体が真珠で成り立っているようなものだから、真珠の景気次第というのが実情です。若い人たちも松山などに出て行ってしまっているので、マリッジエツトやウエイクボードなどを楽しむ人はほとんど見かけませんね(楠田亨志さん)」

「ここ数年は真珠の価格が低迷し、市場はとて厳しいという楠田さんだが、盤石のサポート体制で業務ユーザーからの信頼を得ている。

「レジャーのお客様も一昔前に比べたらだいぶ増えてきました。自営業で50代以上の方が釣りを楽しまれています。ここでの釣りは筏釣りなどが主流なのでボートは23フィートもあれば十分。YF-23が発売になった頃はだいぶ注文がありました。今は一通り買い終わって落ち着いている状況です。業務の方は長年の信頼関係がありますので、迅速な対応でサポートして修理で対応できないようなら、代替の提案をするという感じですね」

「ここ2、3年は展示会や試乗会といったセールスプロモーションを控えて、お客様の要望に添える形でサポートしてきたという楠田さん。4ストロークへの移行も徐々に進んでおり、今後はコマンドリンクも含めての代替提案に意欲を見せている。



徐々にだが4ストロークが始まったという坂下津マリナー



宇和島のヤマハユーザーをサポートする楠田亨志さん



「船外機の代替提案ではコマンドリンクは欠かせないアイテムのひとつでしょう。いまのままでも十分という人も、代替時なら可能性は大いにあると思います。特に給油設備のないところで係留している方や、微速を多用する人には重宝すると思います。ただ業務のほうはこれからでしょう。ひとつがいいと使い始めれば、他の方も導入する可能性があります。今のところは様子を見ていくような状況です」

船外機は他社の価格攻勢が続いているという楠田さんだが、4ストロークへ移行している中で、提案なら、ユーザーの反応もポジティブだという。

今回はユーザー層が異なる3店舗を巡って、船外機とコマンドリンクの手応えを伺

ったが、同じお店の中でもユーザーによって反応の違いがあることがわかった。つまり、ギアを多用するような操船が求められる場合や給油設備がない場所では係留しているユーザー、そして燃費に気をつけているユーザーは非常に関心が高いということ。特に船外機の代替時期が迫っている場合には、セールストークの一環として紹介すれば、本体と合わせてセットで換装するケースが多いということがわかった。景気の低迷で代替も厳しい状況が続いている地域もあるが、メーターという特性はダイレクトに視覚に訴えるだけにお客様へデモンストレーションをするだけでも購買意欲を喚起できる要素がある。ぜひ皆様の店舗やマリナーでPRしてみたいかがだろうか。

その日に合わせて臨機応変に楽しむ。それが長続きの秘訣  
— YAMAHA 38 CONVERTIBLE —



中村 貞良さん ●千葉県船橋市

シーワンダー (YAMAHA 38 CONVERTIBLE) のオーナー中村貞良さん (65歳) は、6艇ものヤマハボート乗り継いできた大のヤマハ党。その40年を超えるボート歴の中には、日本のプレジャーボート草創期らしい、ちょっと無謀な武勇伝もある。

「最初に乗ったのは14ftの競艇用のボート。初めてのボートだから水上スキーから何から、色んな遊びを試したね。ちょっと危なかったのは、保田 (千葉県) から伊豆大島まで行こうとして、辿り着かなかったこと。だって、大島が目に見えるもんだから簡単に行けると思っちゃって (笑)」現在の14ft艇ならまだしも、40年前の競艇用ボートで大島に渡ろうとしたのは、確かに武勇伝に違いない。

その後は20ftのヤマハ艇に乗り換えてから、現在のYAMAHA 38 CONVERTIBLEに至るまでずっとヤマハボート。

「一時、輸入艇に乗ってみたこともあるんだけど、全然ダメだったねえ。フィーリングも合わないし、雨漏りはするし……。ヤマハのボートには随分乗ってきたけど、期待を裏切るものはなかったね」

ボートで海に出る以上に、ボートをいじっている時間の方が楽しいという中村さんは、今でもオイル交換など基本的なメンテナンスは全て自分の手で行わないと気が済まないという。そんなボートを知り尽くした中村さんの言葉だけに重みがある。

「これまでは中間検査に合わせて、大体3年周期で買い換えてきたね。そのタイミングでヤマハが出してきたニューモデルを買う。もう試乗もせずに、スペックだけ

見て決めちゃう。2月の東京ボートショーに展示されている艇を契約しているというケースも多かったよ。つまり1号艇。日本で一番最初に乗っているというのは気分がいいからね」

40年以上ボートに乗っているだけあって、中村さんの船遊びには幅がある。その日に揃ったメンバーに合わせて、フィッシングからクルージングまで臨機応変に楽しむ。YBSが主催するクルージング・イベントもほぼ皆勤賞で、伊豆七島は自分の庭のようなもの。細かいスケジュールは取立てず、その日のコンディションによってベストな遊び方で楽しむのが〈シーワンダー〉スタイル。海の楽しさだけでなく、怖さも知り尽くしているが故の構えでもある。

そんなオールド・ソルトの中村さんが、「ひょっとしたら最後のボートになるかも」という目で選んだのがYAMAHA 38 CONVERTIBLEである。

「前に乗っていた35と比べても格段の違いだね。波切り性能が実にいい。ちょっと荒れた海で乗ると、その違いが出る。トータルバランスに優れているので安心して、いろいろな遊びを楽しむことができます」

